

ほんのもり

高学年むき

平成28年7月6日発行
発行・編集 熊取図書館
編集・協力 学校図書館

(年 組 名 前)

「サッカク探偵団」

あやかし月夜の宝石どろぼう*
藤江 じゅん/作
ヨシタケ シンスケ/絵
角川書店



カケルは、4年1組1班のメンバーといっしょに、有名なパーティーに招待されてウキウキしていたのだが、そこで2つのダイヤがぬすまれる事件が起きてしまう。まもなくダイヤは無事にもどってくるが、なんと大きいサイズのダイヤが、小さいサイズのダイヤと同じ大きさになっていた!!

この不思議な事件を、カケルたち1班のメンバーと、迷子の犬をとどけたことをきっかけに知り合った二の谷さんとで解決する。つづきに、「サッカク探偵団2 オバケ坂の神かくし」があります。



「14番目の金魚」

ジュニア・L・ホルム/作
講談社

エリーの家に、ナゾの少年がやってきた。それは、若返りの薬で13才になったおじいちゃんだった。ママは あきれていたが、エリーはおじいちゃんと いっしょに学校に通うことになった。科学者である変わり者のおじいちゃんと過ごすうちに、エリーは科学に興味を持ち始めるが、科学がおよぼす人間への影響についても考えさせられることになる。



「岬のマヨイガ」

柏葉 幸子/著
さいとう ゆきこ/絵
講談社

両親をなくした小5の萌香と電車の中で知り合った女性ゆりえは、狐崎駅で大きな地震、そして津波におそわれます。無事に助かったけれど、いろいろな事情があって帰る家がない2人に、キワばあさんは自分の家族としていっしょにくらすことを提案します。

キワばあさんが話す昔話の不思議な世界が、きずついた萌香とゆりえの心をつつみこむ、やさしいファンタジーの物語です。

「ニレの木広場のモモモ館」

高樓 方子/作
千葉 史子/絵
ポプラ社



引っこしてきたばかりの5年生のモカは、町歩きイベントに参加するため、「ニレ」の木の下に行きました。すると、そこでモモという5年生の女の子と出会い、すぐに仲良くなりました。あとから来た4年生のカンタという男の子が、集合場所が「ニレ」の木の下ではなく、「ニレの木広場」だと教えてくれたので、みんなで行ってみると……。

新しい友だちと、新しいことをはじめる楽しさが えがかれています。



「ハルと歩いた」

西田 俊也/作
徳間書店

陽太は、なくなったお母さんの故郷・奈良で、1年間だけ通った小学校の卒業式をむかえた。特別な思い出や友だちもない陽太がブラブラ町を歩いていると、とつぜん ホームレスの男から、迷い犬のフレンチブルドッグをたふされる。そして、陽太が犬の飼い主をさがすはめになってしまうのだが……。飼い主さがしを通して、人との関わりの大切さを知り、また、お母さんがぐらした奈良という町を知ること、少しずつ成長する陽太の物語。



「アカシア書店営業中！」

濱野 京子／作
森川 泉／絵
あかね書房

読書好きな5年生の大地。友だちの智也とは、町の本屋「アカシア書店」で仲良くなった。その大切な場所でもある書店の児童書コーナーが、小さくなるというウワサを聞き、大地と智也は、同級生の真衣、琴音と力を合わせて、児童書コーナーを守るためのアイデアをいろいろと考えてみるが……。

「ふしぎな八つのおとぎばなし」

ジョン・エイキン／作
クエンティン・ブレイク／絵
富山房

歌をうたう青いくつ、海の王ネプチューンと結婚した人間のキャリアウーマン、火星人たちによって地球にすてられたかいじゅうたちによって順番に食べられてしまうことになった村の若者、朝一番に手にふれたものを全て木に変えてしまう男の悲劇など、ちょっと不思議な感じの八つのおはなし。



「ぼくたちの相棒」

ケイト・バンクス &
ルパード・シールドレイク／著
あすなろ書房

転校してきたレスターが心をゆるせるのは、愛犬のビル・ゲイツだけ。

一方、転校した友だちのことが わすれられないジョージは、愛犬パートといっしょにある実験を始めたところ、レスターと知り合い、同じ実験をすることになった。

犬をテーマに同じ実験に取り組むことで、2人が仲良くなっていくすがたに加え、実在の科学者とのメールのやりとりを通して、実験を深めていく様子が、とても興味深い物語。



「10歳の質問箱」

なやみちゃんと55人の大人たち

日本ペンクラブ「子どもの本」委員会／編
鈴木 のりたけ／絵
小学館

なやみがある時、だれに相談しますか？はずかしくて相談なんてできない、という人もいるのでは？この本は「努力は、ムダではありませんか？」「運命の人って、いるのでしょうか？」「いじめられたとき、どうすればいい？」など、いろいろななやみに、55人の大人が答えます。なやみの解決に、正解は1つなんて限らない。「こんな考え方もあるのかあ」、「そんなにうまくいかないよ……」などと、感じながら読んでみてください。

「ポンペイのひみつ」

地中に埋もれたローマの古代都市

ティム・オーシェイ／著
リチャード・S・ウィリアムズ／指導
六耀社

遠い昔、火山のふん火により、地上から消えてしまった古代ローマの都市「ポンペイ」。1599年になって発見された遺物などにより、少しずつポンペイの町や人々の生活の様子がわかってきたのです。考古学者などの発掘作業により、何千年も昔のヒミツが解き明かされていきます。

☆「世界遺産考古学ミステリー」シリーズに、『兵馬俑のひみつ』、『マチュ・ピチュのひみつ』、『メサ・ヴェルデのひみつ』があります。



「ワンガリ・マータイ」

フランク・プレヴォ／原作
オーレリア・フロンティ／絵
高橋 優／監修
汐文社

2004年、アフリカ人女性ではじめてノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ。自然破壊が進み、森がなくなりかけていたケニアを救うため、木を植える運動「グリーンベルト運動」を起こし、30年以上にわたり世界中に木を植え続けた勇かな女性物語。

☆「伝記絵本世界を動かした人々」シリーズに、『ネルソン・マンデラ』、『キング牧師とローザ・パークス』、『コルチャック先生』があります。



だいきぎょう にっしん
「見学! 日本の大企業 日清食品」

こどもくらぶ／編さん
ほるぶ出版

インスタントラーメンといえば、「日清」と言えるほど、有名な会社である日清食品。どんなものを作って、ここまで大きな会社になったのか、また、なぜ「日清」という名前がついたのかなど、会社のヒミツを知ることができます。

☆「見学! 日本の大企業」シリーズには、ほかに「バンダイ」、「任天堂」、「カルビー」などがあります。

「見たい! 知りたい!
フロンティア探検」全3巻

たんけん かん
こどもくらぶ／編
WAVE出版

まだまだ、わからない「深海」、「地底」、「宇宙」を探検し、新しい発見をしている様子が見がけられています。コンピュータひとつで、何でもわかるようになってきた時代とはいえ、だれも足をふみ入れたことのない世界があること、見たこともない生きものがあることに、ワクワクさせられます。また、それを追い求めている人々の情熱を感じられるシリーズです。



「あつめた・そだてた

ぼくのマメ図鑑」 盛口 満／絵・文
岩崎書店



マメといえば、手に乗る小さなものを想像するかもしれませんが、作者の盛口さんは、子どもごころに写真で見た1m以上の長さもあるマメのさやの実物を見てみたいと思い、沖縄県の西表島で、本物を見ることができたそうです。その「モダマ」という大きなマメ以外にも、世界にはたくさんの種類のマメがあるのです。みなさんが知っているマメはどのくらいあるでしょうか?



「オオサンショウウオ みつけたよ」

にしかわ かと／文
あおき あさみ／絵
福音館書店

秋にタマゴから産まれたオオサンショウウオの子どもは、春には巣穴から出て、川へと散らばっていきます。生まれて2年目になると、体長が12~15cm、5年目には20~25cmに成長します。やっと大人になってタマゴが産めるようになるのが17年目。成長スピードが人間に匹敵しているオオサンショウウオの一生をえがいた科学絵本。

「古くて新しい椅子
イタリアの家具のしゅうりの話」

いす
中嶋 浩郎／文
パオラ・ボリドリーニ／絵
福音館書店

イタリアに住んでいる4年生のマルコは、お父さんから机と椅子をもらいました。でも古くてオンボロ。がっかりしたマルコですが、職人たちの手によって、それらはみるみる新品同様に変わっていくのです。古いものが再生していく工程がよくわかります。



「にっぽんのおにぎり」

白央 篤司／著
理論社

みなさんの好きなおにぎりは、どんなおにぎりですか? うめぼし、サケ、カツオ、それともツナ?! この本は、お店で見かけるおにぎりではなく、全国47都道府県の各地域で愛されている食材を使ったオリジナルのおにぎりをしょうかいしています。食べてみたいものはあるかな?

シリーズに、「にっぽんのおやつ」もあります。



「みんなでつくる1本の辞書」

飯田 朝子／文
寄藤 文平／絵
福音館書店

1本、2本……と数えるものはたくさんあります。棒のような長いもの、映画やおしほいなどの作品、柔道や剣道の技が決まった時。でも、それだけではありません。ダンスも1本、たからくじの当たりも1本、電車も1本と数えるのです。「1本」ってどんな時に使うの？ みんなで1本について考えてみよう！

「いのりの石 ヒロシマ・平和へのいのり」

こやま 峰子／文
塚本 やすし／絵
フレーベル館

1945年8月6日は、広島に原子爆弾が落とされた日。その時に残った広島電鉄のしき石が集められ、二度とあのような戦争をくり返すことがないよう、しき石にいのりの心をたくし、世界に伝えていくことになりました。

戦後、200個以上のしき石が、平和のシンボルである「いのりの石」として、世界中に届けられたというお話が絵本になりました。



「そらいろ男爵」

シル・ボム／文
ティエリー・デデュー／絵
主婦の友社

そらいろ男爵は、飛行機に乗って島をながめることが好きでした。でも、地上で戦争が始まったため、男爵も戦争に行かねばならなくなりました。そこで男爵は、飛行機に乗って、敵に爆弾を落とす代わりに、本を落とすことにしたのです。はじめは、分厚い本を、そして、おもしろい本を……と、次々落としていくうちに、戦いをやめて、みんな本に夢中になりました。戦争をやめさせる方法なんてあるのかな？ こんな方法でやめたら良いのにな。と考えさせられる絵本です。



「名馬キヤリコ」

バージニア・リー・バートン／絵・文
岩波書店

カウボーイのハンクの馬キヤリコは頭がよく、足の速さもとびきりです。ある日、ハンクの住む平和な町、サボテン州に悪党5人組がやってきました。サボテン州の牛をぬすんだ悪党たちを相手に、名馬キヤリコは大かつやく！スピード感あふれる展開に、わくわくドキドキと楽しめます。

「三つのまほうのおくりもの」

ジェイムズ・リオーダン／文
エロール・ル・カイン／絵
ほるぷ出版

むかし、ロシアの村に、イワンという兄弟がいました。ある日、お金持ちの兄からもらった小麦粉を「風」にふき飛ばされた弟のイワンは、「風」を追いかけて行って文句を言いました。すると、「風」はおわびに、食べ物は何でも出てくる「まほうのテーブルかけ」をくれたのです。けれども……。

兄に「まほうのおくりもの」を次々取られてしまう弟のイワンは、幸せになれるのでしょうか。



「子どもに語るアラビアンナイト」

西尾 哲夫／訳・再話
渋谷 啓子／再話
こぐま社

むかしむかし、ペルシアの国に、愛する人に裏切られ、人を信じられなくなった王さまがいました。だれも信じない王さまは、毎日新しいおきさきを むかえては、次の日その首をはねていました。そんな王さまのところ、ある日、シェヘラザードという娘が、新しいおきさきとしてやってきました。そのばん、シェヘラザードは不思議な物語を語り始めました。王さまは、そのお話の続きが気になって、気になって……。

こうして、千日の間、毎夜語った物語が「アラビアンナイト」とよばれているのです。